

# 災害派遣職員レポート

No.1 H23.3.25

現地ニーズ調査隊の一員として、3月23日よりえびな北高齢者施設の渡辺健司相談員を岩手に派遣しました。

早速、渡辺相談員から現地の様子について報告が届けられました。ぜひ、写真と併せてご覧ください。

今後、えびな北高齢者施設 藤村補佐 も、先遣隊に加わる予定です。さらに、多くの職員が派遣協力を申し出ています。災害を受けられた皆様の、一日も早い復興を心から願っています。

今日は陸前高田市に視察と車と物資を届けに行ってきました。

街の中心部は壊滅的な状況で360度どこを見渡しても瓦礫の山と流された後の更地でした。

避難所では一般の方は体育館で、高齢者と幼児が別に部屋を設けて生活してました。

高齢者はほとんど寝たきりの状態だと思います。

まだ現地の施設調査の計画は詳細までは決まっておらず手探りの状態のようです。



# 災害派遣職員レポート

No.2 H23.3.29

現地ニーズ調査隊の一員として、えびな北高齢者施設の渡辺健司相談員と同じく藤村2階介護課課長補佐を岩手に派遣しました。

二人から現地の様子について報告が届けられました。ぜひ、写真と併せてご覧ください。

現在多くの職員から、派遣協力の申し出があります。法人としても全面的に協力体制を取っていく所存です。災害を受けられた皆様の、一日も早い復興を心から願っています。

## H23.3.27 渡邊相談員

お疲れ様です。今日から現地調査に入りました。僕と藤村補佐担当の地区は久慈市、野田村、普代村、田野畑村の岩手北部の地区です。

野田村は陸前高田市と変わらないくらいのひどい被害でした。今日は日曜日ということもあり施設の管理職が不在のため、各市町村の災害対策本部に行き全社協の施設調査の活動の趣旨を説明して回りました。

久慈はそれほど甚大な被害はないため、ビジネスホテルを取って、そこから日中活動するといった感じです。朝食と夕食はホテルの近くの弁当屋等でなんとかなるので、昼食で持たせてもらったパンとカップ麺を使わせてもらいます。被災地に行けばやっている店は当然なく、昼食の場所を探す時間が省けるのでとても助かります。

こちらはとても寒く今日もかなりの雪が降ってました。早朝は道が凍結しているため気をつけて運転しています。被災地の方たちは雪の中でもがれきりの中でがんばって活動していました。

## H23.3.28 藤村補佐

今日は岩泉町、田野畑村の高齢者施設、保育所、障害者施設10件を調査で訪問。

高齢者の入所施設4ヶ所では、2～9名の在宅高齢者を受け入れている。あるデイでは4月より14名を受け入れて宿泊施設となる為、外部の職員の応援はありがたい、とのこと。

ある保育所は、津波に被災した為場所を他に間借りし運営していた。

今回調査した地域は他に比べ被災規模が小さく、利用者職員ともに亡くなった人はいなかったが、家が流された職員は少なからずいた。(津波被災した保育所の写真を添付)



## 被災地での調査活動

渡辺健司

私は3月22日から4月1日まで11日間、全国社会福祉協議会の岩手県社会福祉施設現地ニーズ調査隊の一員として活動をしてきました。今回の施設調査の趣旨は、岩手県の被災した沿岸部の福祉施設を直接訪問し、定員超過で受け入れをしている利用者人数、利用者の被害状況、施設職員の被害状況、建物の被害状況、応援を要する人数について聞き取りをして、全国社会福祉協議会と岩手県社会福祉協議会が協働して行う福祉施設支援プログラムに繋げて、全国的な支援体制を築くことでした。

3月23日に盛岡に到着し、岩手県社会福祉協議会本部に入りました。盛岡はそれほど大きな被害はなく、街の様子は穏やかでしたが、コンビニやスーパーの棚は空っぽで、ガソリンスタンドには神奈川県内の行列とは比べ物にならないほどの大行列ができていました。岩手県社協本部は地域のコミュニティセンターのような所で、被災した沿岸部からの避難所にもなっていました。

到着してすぐに任された仕事は、陸前高田市のボランティアセンターに救援物資と車を届けることでした。陸前高田市は今回の震災では甚大な被害を受けたところで、テレビでもよく報道されていたため、状況は大体知っていましたが、実際に現地に行ってみて愕然としました。360度どこを見ても瓦礫の山と津波で流された後の更地でした。その悲惨な光景は、テレビのように一面的にしか映されない光景とは明らかに違うものでした。

最初の数日は、レンタカーの手配、調査隊の宿の手配、必要物品の準備、調査する施設のリストアップ、ルート確認等の事前準備を手伝い、3月27日から調査が始まりました。私と藤村補佐の担当は、岩手県の北部沿岸部の久慈市、野田村、田野畑村、普代村、岩泉町の福祉施設（高齢者施設、障がい者施設、保育園）でした。久慈市がそれほど大きな被害がなかったため、久慈のホテルを拠点にして、日中、車で施設をしらみつぶしに回りました。岩手県は3月下旬でもとても寒く、早朝は路面が凍結していたり、雪道であったりするため、運転にはとにかく気を遣いました。

31日までの5日間で、全部で30超の施設を訪問しましたが、ある高齢者施設では、14人ほど定員を超過して高齢者を受け入れる予定があり、とても今いる職員だけでは対応できない、との話があり、人材派遣の話をする、とても興味をもってくださり、岩手県社協の支援プログラムに繋がりました。

私は今回の震災での東北の被災状況をテレビで見ている、何でもいから何か自分に支援できることはないかと思っていました。被災され亡くなられた方



たちの6割ほどが65歳以上の方だと新聞の記事でありました。亡くなったお年寄りや子どもが、もし自分の祖父母や、自分の子どもだったら、と考えたら、家族を失った方たちの心痛は計り知れないものではないかと思いました。中心会で、人材派遣のための希望者を募るとの話を所長から聞き、すぐに希望しました。

どんな仕事をしていても被災された方たちのためにできることはあるとは思いますが、直接現地に行って、本当に困っている福祉施設のために働けるというのは、自分にとってとても貴重な経験になったと思います。調査で回った野田村で、津波で丸ごと施設を失った保育園がありました。園児は皆避難して無事でしたが、建物が無いため近くの公民館で運営していました。その園長先生は、とにかく今はがんばるしかない、と気丈に話をされ、自分の役割をしっかりと認識されていました。被災地で働いてらっしゃる現地の方々は、皆自分自身も何らかの被害を受けているにも関わらず、それぞれが自分の持ち場を離れることなく、自分の役割を全うしているように見えました。こんな大変な時だからこそ、普段自分がしている仕事の大切さを再認識されているのではない



流された保育園のあったあたり（野田村）

かと思いました。私も今回の調査活動で、本当に困っている方や、行き場のない方たちを見て、普段施設で自分がしている仕事の大切さを再認識することができました。この仕事をしていて良かったと思います。

3月31日に、盛岡の岩手県社協に戻り、各ブロックの担当者ごとに調査の結果報告をしました。最後に岩手県社協の福祉経営支援課の方から話がありました。その中で、

「岩手のためにご協力いただいて本当にありがとうございました。このご恩は一生忘れません」と話されていました。

私もその言葉を一生忘れることはないと思います。

## 岩手県災害地派遣報告

えびな北高齢者施設／藤村淳

3/11の東日本大震災で岩手県は甚大な被害を受けました。岩手県社協は被災地の社会福祉施設等が必要としている支援内容について把握する為に訪問調査を実施することとし、全社協を通じて全国の社会福祉法人へ協力要請がありました。その結果、今回は私たち中心会を含め4つの法人から其々2名ずつ、3/26～4/1の間に現地へ訪問調査に向かいました。以下、その活動内容を日別に報告します。

3/26

盛岡の岩手県社協にて先に派遣されていた渡辺職員と合流。他の3法人の方も含めミーティング、中心会は久慈ブロックの調査担当となりました。(他の法人は其々、宮古、釜石、大船渡の各ブロックを担当)

3/27

現地へ出発。久慈ブロック(久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町)の各災害対策本部へ行き現地施設へ直接訪問調査することを伝えました。久慈市は比較的被害は少なくライフラインも問題ありませんでしたが、野田村は沿岸部の市街地は壊滅状態で未だ電話も通じず混乱した様子でした。

野田村役場ががれきの中から出てきたアルバムを集めた一角がありました。見渡す限りがれきの荒野のそこかしこに、それまで普通の暮らしがあったことを泥のついた写真は語りかけてくるようで涙が出る思いでした。

3/28

岩泉町、田野畑村の高齢者施設、保育所、障害者施設10件を現地調査で訪問しました。高齢者の入所施設4ヶ所では、定員を超えて2～9名の被災した在宅高齢者を受け入れていました。あるデイサービスでは4月より14名を受け入れて宿泊施設となる為、外部の介護職員の応援はありがたい、とのことでした。

今回調査した地域では、利用者・職員ともに亡くなった人はいませんでした、家が流された職員はどの施設でも1～2名はいるようでした。



被災した田野畑村保育所

3 / 29

野田、田野畑、普代の各村の施設9か所を聞き取り調査で訪問しました。野田村では保育所丸ごと流された所もありましたが、子供たちは全員避難して無事だったとのこと。90名もの子供たちを一人も欠けることなく避難させられることが出来たことに日頃の防災意識の高さと防災訓練の重要性を感じさせられました。

グループホームが丸ごと流された(入居者は全員無事)法人もありましたが、入居者は他施設へすでに移動しており人的支援のニーズは薄いとのことでした。(被災者の受け入れをしている他施設でも、職員が無事だったこと受け入れ人数が少ない(数名程度)ことから現状人手は足りている、との回答が多くありました)

そんな中で小さな障害者通所施設が営業中止して20人もの一般非難者を受け入れており「これからどうしようか…」と園長が途方に暮れた様子でした。こういった所への支援の必要性も感じました。

3 / 30

久慈市の施設、保育所等を15件ほど聞き取り調査。

ある保育所の園長先生が「家も舟も流され保育料も払えないからと逆に保育所の子供が減っている。これでは先生たちも雇えない。そちらの支援もお願いしたい」と涙ながらに話されたことが印象に残りました。

また「津波の恐怖でデイサービスに通うことを怖がるお年寄りがいる」ことも聞きました。こういった方への心のケアもこれから大切なのだと感じました。

3 / 31

午前中は久慈市の残った施設を訪問し、盛岡へ。16:30より岩手県社協内でミーティング、他ブロックの報告を聞きました。

他ブロックは被災状況も酷く聞き取り調査も苦労した様子でした。がれきで車がパンクしたり、不審者が多い中ガソリン泥棒扱いされ話もできない地域もあったようです。

また「津波警報を聞いた職員が入居者を放り出して全員逃げ出してしまった施設があった」との報告にはショックを受け考えさせられました。普段から入居者を守ることにについてどうしたらよいか皆で考えていきたいと思います。

今回中心会が担当した久慈ブロックは比較的被害が少なかったとはいえ、どの高齢者施設も定員を数名程度超えて被災したお年寄りを受け入れていました。今は何とか人手をやりくりできているが、さらなる受け入れとなると人的支援ニーズは大きくなると感じました。陸前高田市など被害が大きい所のニーズが大きいのは確実です。

是非、災害地派遣に参加を申し出てもらい皆で支えあっていければ良いと思います。

最後に、災害地派遣に行くにあたり「えびな北のご利用者のことは心配しないで」と送り出して下さった上司、同僚、部下に感謝します。おかげで安心して現地で活動できました。

# 災害派遣職員レポート

No.5

H23.5.2

4月30日より神奈川県を通じて気仙沼に派遣した、えびな北高齢者施設 岡島昭子職員並びに中心荘 鈴木ちゆき職員より、現地での活動場所は総合体育館になりましたが、そこでの活動について電話連絡がありましたのでご報告します。

二人ともとても元気に、そして献身的に介護にあたっています。同じ法人で働く者として、大変うれしく思います。

岡島さんより 5月1日

「昨日の朝7:30に横浜を出発して、16:00に現地に到着すぐに現場に入り、介護を始めました。

今晚の(5月1日)0:00~8:00の夜勤をすることになりました。

スタッフルームという小さな部屋があり、そこで横になって休みます。

食事は、支給されみなさんといただきました。

頑張っ、被災地の方のために介護を提供します。」

と、とても元気な声で話してくれました。

鈴木さんより 5月2日

「介護が必要な方は、避難されている方750名のうち17名の方です。

トイレ誘導、移乗、薬の与薬、食事の配下膳などを行っています。

現在2名1組となって、4時間交代で介護にあたり、食事の時には全員で対応している。

今後、入浴介助(週1回のシャワー浴)も行うが、同性介護の希望があるので、それに合わせてメンバーで対応していく予定です。

避難所の方々への食事は、先週の土曜からやっと朝も配給されるようになったとのことで、それまでは1日2食だったそうです。そのような状況だったため、先行していた群馬県チームは食事は自分たちの持参品で賄い、配給は受けてなかったようですが、現派遣メンバーへの食事は配給されているとのことです。」

と、とても澁刺とした元気な声で話してくれました。

岡島さんより 5月2日

「4時間毎の短い時間でシフトを組んで、介護しています。

要介護1~3程度の方のお世話で、トイレ誘導・介助を中心にお手伝いしています。

食事に関しては、配膳、見守り介助を行っています。食事介助は必要が無い状況です。

インシュリンの自己注射をしている方がいて、実施の見守りをしています。

ご利用者が微熱がある場合などは、医師・看護師がいるのですぐに診察してもらえる環境になっています。

入浴は、週に1回、土曜日が入浴日です。

※次に派遣されてくる三浦さんたちは、短パンを持ってきてくださいとメッセージでした。

夜は、寝袋で横になる程度で、ぐっすり眠ることはできません。少々体が痛いですが、体は元気です。体調も問題がありません。

食事も、自衛隊の炊き出しを一日2食いただいています。

派遣職員は、入浴はできません。ドライシャンプーで頭を拭いています。

※岡島さんは、覚悟して出かける前に髪の毛をばっさり切ってきました。

マスク・プラスチックグローブ・消毒薬品等はそろっているので、持参してきたもので十分に足りています。次のグループはたくさん持ってくる必要はありませんよ。」との連絡がありました。

# 災害派遣職員レポート

No.6 H23.5.3

5月1日から、全国社会福祉協議会を通じて、岩手に派遣された中心荘 杉山職員より現地での活動について電話連絡がありましたので、ご報告します。  
一緒に出かけたえびな南高齢者施設 松下職員とともに元気に、活動を始めています。

杉山さんより 5月2日

昨日は、盛岡でミーティングを行い、活動の説明を受けた。えびな南の松下相談員とともに宮古市で宿泊し、山田町で活動を行っていくことになりました。  
活動内容は、午前中に災害ボランティアセンターでのボランティア受付、午後は福祉施設を回っての調査、その他として社協がサロンを開いていくための手伝い。また、毎日17:00にはミーティングを行うこととなっています。

今日は、午前中に盛岡から山田町のボランティアセンターまで、車で約100キロ程度移動し、ボランティアセンターの方から説明を受けました。  
その後、ボランティアの受け付けを110人程度行いました。三重県からバスで20人、一般の方たちがボランティアに来てくれましたが、今後も継続して、三重から交替でボランティアに来てくれるとのこと。また、受付にはボランティア希望者だけではなく、地域の方たちが「ここで物資がもらえると聞いたから」と来られることもありました。本来物資は、それらを配給するセンターがあり、一旦そこに集められたものが配給されるのだが、同じ方が何度も来られることがあったため、分けてあげたことも。

ボランティア受付終了後、近隣の保育園の調査に、車で回りました。5～6箇所周ったが、運営していたのは4箇所。いろいろな困りごとがあるが、食料が行き届いていないとの話。魚や肉が手に入らないため、食べられていないという現状があった。

\*感想として、テレビなどで被災地の悲惨な状況は分かっていたつもりだった。しかし、家の上に車が、ガソリンスタンドの屋根の上に船が載ったままと、驚きの状態が、そのまま手つかずになっているのが当たり前。何が起きたんだ！という印象。想像以上にひどいと感じました。



# 災害派遣職員レポート

No.7 H23.5.4

4月30日より気仙沼に派遣した、えびな北高齢者施設 岡島昭子職員、中心荘 鈴木ちゆき職員、5月1日より岩手県に派遣した中心荘の杉山祐子職員 5月3日より陸前高田に派遣した中心荘 鈴木秦職員 からそれぞれの活動の様子などについてメールや電話で連絡がありました。現在、二人一組で、合計三組6名の職員がそれぞれの被災地において、避難所や高齢者施設での介護などにあたっています。気仙沼に派遣している岡島昭子職員と鈴木ちゆき職員は、5月5日に戻ってきます。そして、新たにえびな北高齢者施設 三浦和子職員と中心荘 井本博之職員が気仙沼に向かいました。継続して、支援を行うためには多くの職員の力が必要です。

ひとりでも多くの職員が、災害派遣職員として手を挙げてくださるようお願いいたします。

## ボランティアさんのコーディネイトなどにあたっている杉山さんより 5月3日

今日のボランティア受付は8:30に開始しましたが、既に並んで待っていらっしゃる状態でした。活動しているメンバー間での「必ず何かの活動につなげ、直ぐに活動してもらおう」という意識統一のもと、スピーディーに進め、10:00位には終了しました。

その後は、社協の方達と、サロンの候補地になっている、高台にあるお寺、県の住宅街の中にある集会場を見てきました。

午後は、昨日同様、4箇所の保育園の調査に周りまわりました。車の運転は得意ではないので、その点が大変です。園児の家庭の被害状況、不足している物資は？などを聞きました。風邪で園を休み自宅にいたために津波に流されてしまったなど、亡くなった園児は2～3例ありました。

保育園の調査はとりあえず本日で切り上げ、明日からはサロンや移動カフェを行っていくための活動に入ります。5/13には第1回目のサロンを開く予定です。今の活動メンバーでその時期にここに残っているのは、えびな南の松下さんと私だけなので責任重大ですが、被災地の方達に希望を持ってもらえるような活動に携わることができ、うれしく思います。

## 中心荘 三浦副所長より

とても、いきいきと話をしてくれました。是非、サロンの成功に向けて、力を発揮してもらいたいと思います。(サロンや移動カフェは、臨時的なデイサービスのようなものではないかと推察されます。)

## 盛岡に到着した鈴木(秦)さんより電話で 5月3日

今日は、盛岡駅から岩手県社協に行き、全社協の吉村さんから話を伺いました。

陸前高田にある避難所となっている中学校の視聴覚室に、要介護の高齢者が19人いらっしゃるの、その方達の介護を、えびな北の増田さんが2週間、自分は1週間、缶詰状態で行うとのことでした。介護は6名くらいのメンバーでローテーションで行うそうです。ただ、高齢者の方達は、自分たちで体操もできる方もいらっしゃるという話だったので、一部介助的なお手伝いをするという印象を受けました。詳しい話は、明日現地に行って説明して下さるとのことでした。今は、貸していただいた車で、えびな北の増田さんとともに、用意していただいたホテルにきています。

盛岡市や今日宿泊する安比高原など、自分が目にしてきた風景は、被災されたものではなく、何もかもが普通でした。明日の陸前高田は悲惨だとのことでした。

ただ、物資については用意されていて、食料もあるなど、その点の心配はいらないようです。

**避難所において介護等を行っている岡島さんよりメールで 5月3日**

お疲れさまです！私は大丈夫です。毎日楽しくやっています。慣れたところで帰らなくてはいけないから、それが残念です！

**えびな北高齢者 菅原所長より**

岡島さんは、どんな場所でも介護を楽しんで、きっと被災地の方の笑顔を引き出してくれたのだと思います。なんか心が温まりました。岡島さんの気持ちが見える内容です。

被災地の状況をテレビで見るだけでは、知りえないことが 現地に行くことで肌で、心で感じるのではないのでしょうか。

みなさん、積極的に災害派遣に手を上げて、被災地に行って来てください。

見て、聞いて、感じて来てください。すでに行って来た職員に話を聞いてください。

実家のある岩手から磯田さんも帰ってきました。彼の体験も聞いてください。

本当に辛い日々を過ごしてきました。

被災地に行ってきた体験を通して、それぞれがさらに人間としての成長があったと感じます。

今、私たちにできることってなんだろう？それは、介護というスキルをフル活用して、被災地で介護が必要な方々のお世話をさせていただくことですね。

中心会の・えびな北の力を集結していきましょう！！

次々と、被災地支援の希望者が増えています。ありがとうございます。

**避難所において介護等を行っている鈴木（ちゆき）さんより電話で 5月4日**

介護については、今までと変わりはありませんが、イベントがある時には、高齢者の方と一緒に鑑賞しに行っています。昨日はよさこい踊り、今日は和太鼓。ボランティアで周っている方達が見せてくれます。

ご自分では自発的に動きにくい方達も、見に行くことで、落ち着いたりされます。

えびな北の岡島さんも元気です。

昨日は、3日間無料で入浴をやっているところがあるという情報が入り、男性のメンバーから「風呂でも入ってきたら」と声をかけてもらえたので、タクシーを乗り合わせて行ってきました。こちらに来て初めてのお風呂でした。

その際、タクシーの運転手さんが「是非（この悲惨な状況を）見て行ってください」「写真を撮って行ってください」と、30分程度でしたが近くを周ってくれました。

2ヶ月経ってもまだこの状況…という印象でした。それから、臭いがありました。テレビでは画像が見られますが、これは来てみないと分かりません。重油のような臭い、火災に遭ったためいろいろなものが混ざったような臭い…

今は、ようやく慣れてきたのに…もう一日あれば…という感じです！

**中心荘 三浦副所長より**

4時間交代の介護で、交代後でも休めない状態だとの話も聞きましたが、そんな辛さを感じさせないくらい、いきいきした声で、話を聞かせてくれました。明日、神奈川に戻ってきますが、まだ支え足りないという気持ちが伝わってきました。行っていただいてよかった、とてもうれしく思います。

# 災害派遣職員レポート

No.8 H23.5.5

被災地の避難所などで、介護等にあたっている職員の方から、続々と現地の様子が寄せられています。また、釜石市の実家が被災し災害発生直後に現地に向かったえびな北高齢者施設の磯田職員が、現地での様子を事業所のホームページに寄せてくれました。

皆さんも、ぜひ、えびな北高齢者施設のホームページをごらんください。

## 気仙沼に第2グループで派遣された三浦さんよりメールで 5月4日

初日は24時まで勤務です。シフトは皆で話し合っていて決めて、4時間勤務で交代しています。3グループあるので、8時間休めます。

介護度は比較的軽い方が多く、殆ど見守りです。やはり皆様どこか疲れきっていますが、話すとても嬉しそうに色々話してくれました。

まだ初日なので探り探りですが、皆様の顔と名前を覚えるところから始めています！

## 同じく気仙沼に第2グループで派遣された井本さんより 5月4日

気仙沼の体育館です。今日は、引継ぎを行いました。神奈川県からの派遣メンバー5人に、山形県からの2人を加えた、7人のチームです。そこで、チームリーダーとして活動することになりました。

最初の役割として、4時間交代のシフトを組んで、メンバーに伝えました。自分はリーダーとしてフリーで動きます。

食事は普通に出るようですので、持ってくる必要はなかったようです。風呂に入れないので、着替えもあまり要らないようです。被災者のために、持てる力を発揮します！

## 中心荘 三浦副所長より

とても心強い報告をもらえました。リーダーとして、しっかりまとめあげてくれると思います。鈴木ちゆきさん、えびな北の岡島さんからの思いを引き継いで、えびな北の三浦さんとともに頑張ってもらいたいです。

## 陸前高田市に派遣された増田さんより電話で 5月3日

到着した日は、恐縮するような立派なホテルに泊まることに戸惑っていましたが、翌日からの事を考えて、心の整理・覚悟を決める時間としてゆっくり過ごします。明日から、しっかり頑張ってお世話します。

## 陸前高田市に派遣された増田さんよりメールで 5月4日

なかなかハードな勤務です。大体一日平均16~18時間労働になります。

このあと2時30までの勤務で一旦仮眠をとります。(22時30くらいのメール)

## えびな北高齢者施設 菅原所長より

増田さんは、覚悟を決めて行っていますので、しっかり役割を果たしてくると思います。

急な派遣でしたが、3日に新幹線で岩手に向かってくださいました。

やはり、メールでは多くは語っていませんが、現場は過酷な状況のようです。

# 災害派遣職員レポート

No.9 H23.5.6

5月1日より2週間の予定で岩手県に派遣した えびな南高齢者施設 松下美知恵職員から報告をいただきました。デイサロンは被災高齢者の介護拠点になると思います。立ち上げがうまく進むことを祈ります。

私は今山田町にてボラセンの受付業務やニーズ調整、後は保育園の被害状況調査をしています。今後はデイサロンなどの立ち上げに関わっていくかもしれません。個々の説明は長いので後日改めて報告します。山田町は震災直後、沿岸部が火災に見舞われ報道が激しかった地区です。街中を歩くと焼け跡のある家や炭化した木が生え残っていたりしています。それ以上に、反転した車や屋根の上に乗りに上げてしまった船、ひん曲がった標識にいつまでもつかない信号機、すべてが目を疑う光景ばかりです。写真は沿岸部の風景です。



5月4日から2週間の予定で気仙沼で活動している、中心荘 井本博之職員より「我々は頑張っていますので安心してください。」と、元気いっぱいの報告をいただきました。

本日は、リーダー業務+フリー番で動きました。朝5時から一日が始まり、排泄、食事、投薬の介助がメインです。要介護度は1から2程度の方々が対象です。お1人寝たきりの方がいますが、奥様が看護師なので付きっきりで介助されています。移乗の時のみ声がかかり、我々が手伝っています。

土曜日は、週1回のシャワー浴ができる日で、皆さん楽しみにしています。また、希望者だけですが、<こころの診療所>の診察があり、その介助もします。(ボランティアの医師が定期的に来られるのだそうです。)避難所では寝袋で休んでいます。食事は3食炊き出しの食事を食べています。



# 災害派遣職員レポート

No.10 H23.5.9

気仙沼及び陸前高田に派遣されている4人の職員より、現地での様子について連絡がありました。陸前高田市においては、ノロウイルスによると思われる下痢やおう吐症状が発生しているようです。介護する側が感染しないよう、また、感染源にならないよう手洗いの徹底を心がけて行きましょう。

## 気仙沼に派遣されたえびな北 三浦和子職員より 5月6日 深夜

お疲れ様です=体調の方で心配をかけてすみません…でも元気に業務にあたってます！

仕事内容ですが、シフトによって違いはありますが一日のスケジュール的には大体施設の流れと同じです。足浴の方がいたりトイレ誘導の方がいたりと。

ただ、土曜日は洗濯と入浴があるので、明日は慌ただしくなりそうです！

私が所属している神奈川県チームと、山形県チームの計8名で交代しながら仕事をしています。

リーダーは井本さんにやってもらってます！=バスの中で仲良くなりました（笑）

私達のチームのシフトは以下のようにしてます[↓]

A→8時～12時・20時～0時 B→12時～16時・0時～4時 C→16時～20時・4時～8時

リーダーは番に入らず、フリーで動いています。リーダーは医療カンファレンスやミーティングがあるので。シフトはチームによって考えて決めていいそうです。

## 同じく えびな北 三浦和子職員より 5月7日夕方

いよいよ明日が避難所最終日です。明日はこちらでの業務が終わり、高橋さん達と合流して引き継ぎが終了すれば、もう一つの活動地の施設に移動します。

土曜日は入浴（シャワー浴）がありますので、唐澤課長はあたると思うので準備をした方がいいと思います。拒否が強い方がいらっしゃったんですが、洗髪中はとても穏やかな顔をされて「気持ちいい」と言ってくれました。

他にも、入浴中に色々話してくださる方がたくさんいて、お話を聞くことができました。

## 同じく気仙沼に派遣された 中心荘 井本博之職員より 5月7日

今日は、シャワー浴と洗濯がメインでした。シャワー浴は週1回ですが、中には「入りたくない」という方もいらっしゃいます。でも、そこをその気にさせて入っていただくのも私たちの役割と思い、あれこれ言いながら入っていただきました。消極的だった方も、入った後は喜んでいただけたので、良かったです。洗濯も週2回と制限があるのですが、皆さんあまり着替えないため、洗濯機4台×1回で十分終わらせることができます。

明日が体育館でのお手伝いの最後となります。最初は人見知りやをされあまりコミュニケーションが取れなかった方たちも、皆「帰らないで」「また来てね」など言って下さいます。うれしく思います。1週間の派遣期間ですが、2週間ぐらいが妥当なのかもしれません。

### 陸前高田市に派遣された えびな北の増田陽介職員より 5月8日

下痢・嘔吐に症状の方が現在25人いる。ノロウイルスの疑いが強い。

次にくる、白石職員へ、エークイックプロとガウンなど持たせて欲しいと依頼がある。

ノロウイルスの対策について、【自分が一番知識があった。】自分の知識と経験をフル稼働させている。日常の行動や、研修が生きていると実感した。

### 菅原所長より

やったね！！！！このような時に実力が試されるのです。

頑張っ増田さん、絶対に自分が感染してはいけない。守る立場の自分が足を引っ張らないように・・・と、よけいな事を言ったら、「わかってます。大丈夫！！」と強くいきってくれました。

### 気仙沼に派遣されたえびな北 高橋職員より 5月6日 深夜

今日着いてすぐに夜勤になった。今、地元の子供たちとキャッチボールをしてきた。

「子供たちは、家を流されて避難場所の体育館から学校に通っている。」

と言っていた。どこまでの話を聞いて良いのか迷ってしまった。

と、高橋さんらしい悩みである。

高橋さんの10歳違いの弟君がいるが、その子を思出しながら関わってみれば良いのではと・・・。

伝えると、腹に落ちたのか。明るい声で、「そうだ！！、そうします。」と・・・。

陸前高田市のノロウイルスの感染の状況を伝えると、急に神妙になり、あれこれ悩み始めていた。

『最大の感染防止策は、正しい手洗いだけであること』を再確認した。

『絶対に感染するな！！』と付け加えて、他の職員へも周知するように伝えて電話を切った。